

② 授業

2-1 心がけている授業方法

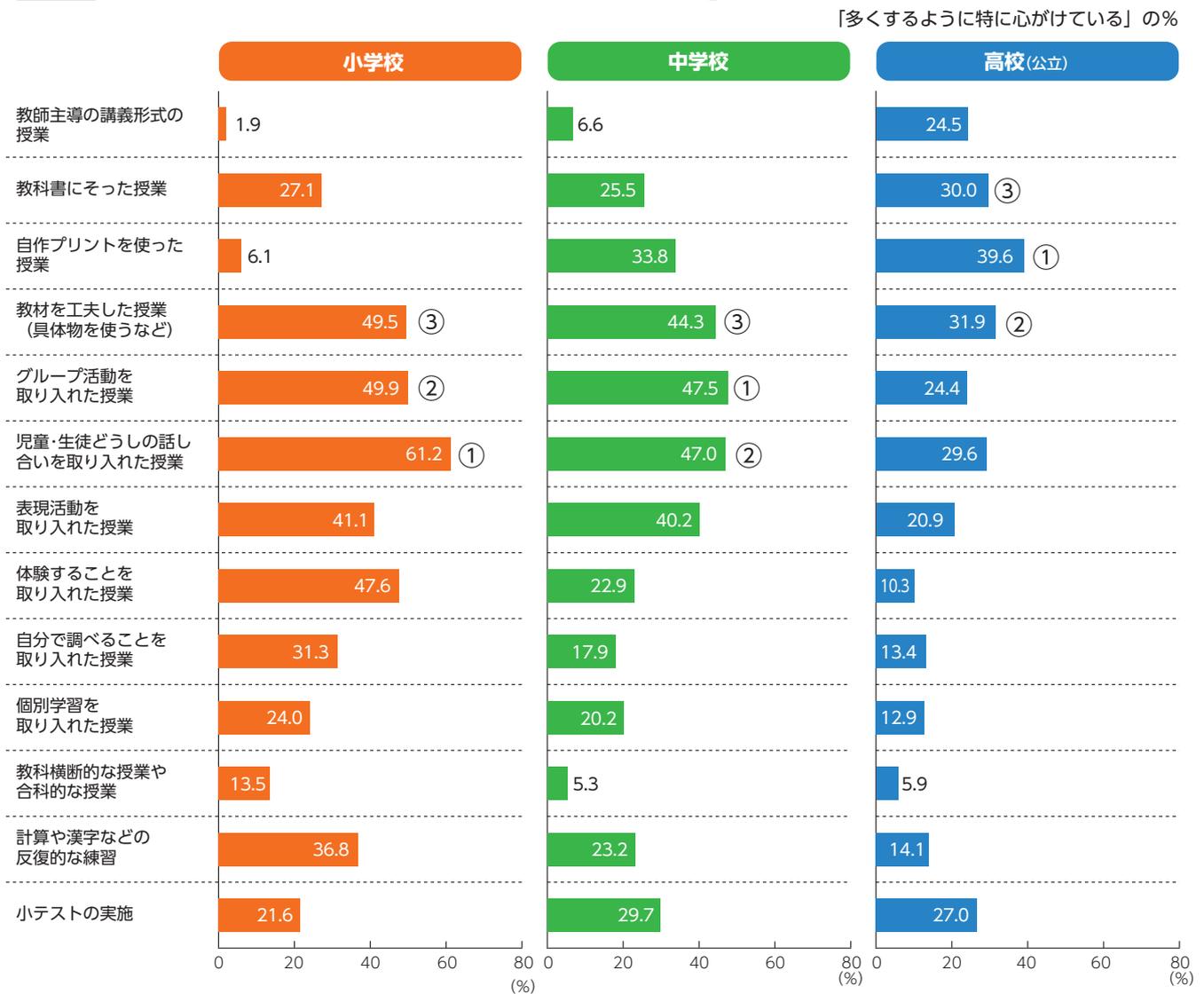
小・中学校では「グループ活動」や「話し合い」など協働的な学習がもっとも意識されている。

教員が「多くするように特に心がけている」授業方法として多いのは、小・中学校で「グループ活動を取り入れた授業」「児童・生徒どうしの話し合いを取り入れた授業」といった協働的な学習方法である。一方、高校では、「自作プリントを使った授業」がもっとも多い。また、小・中・高校とも共通して多いのは「教材を工夫した授業(具体物を使うなど)」、反対に、共通して少ないのは「教科横断的な授業や合科的な授業」である。

Q

あなたは、教科の授業において、どのような授業方法を心がけていますか。

図2-1 心がけている授業方法 小学校 中学校 高校 教員



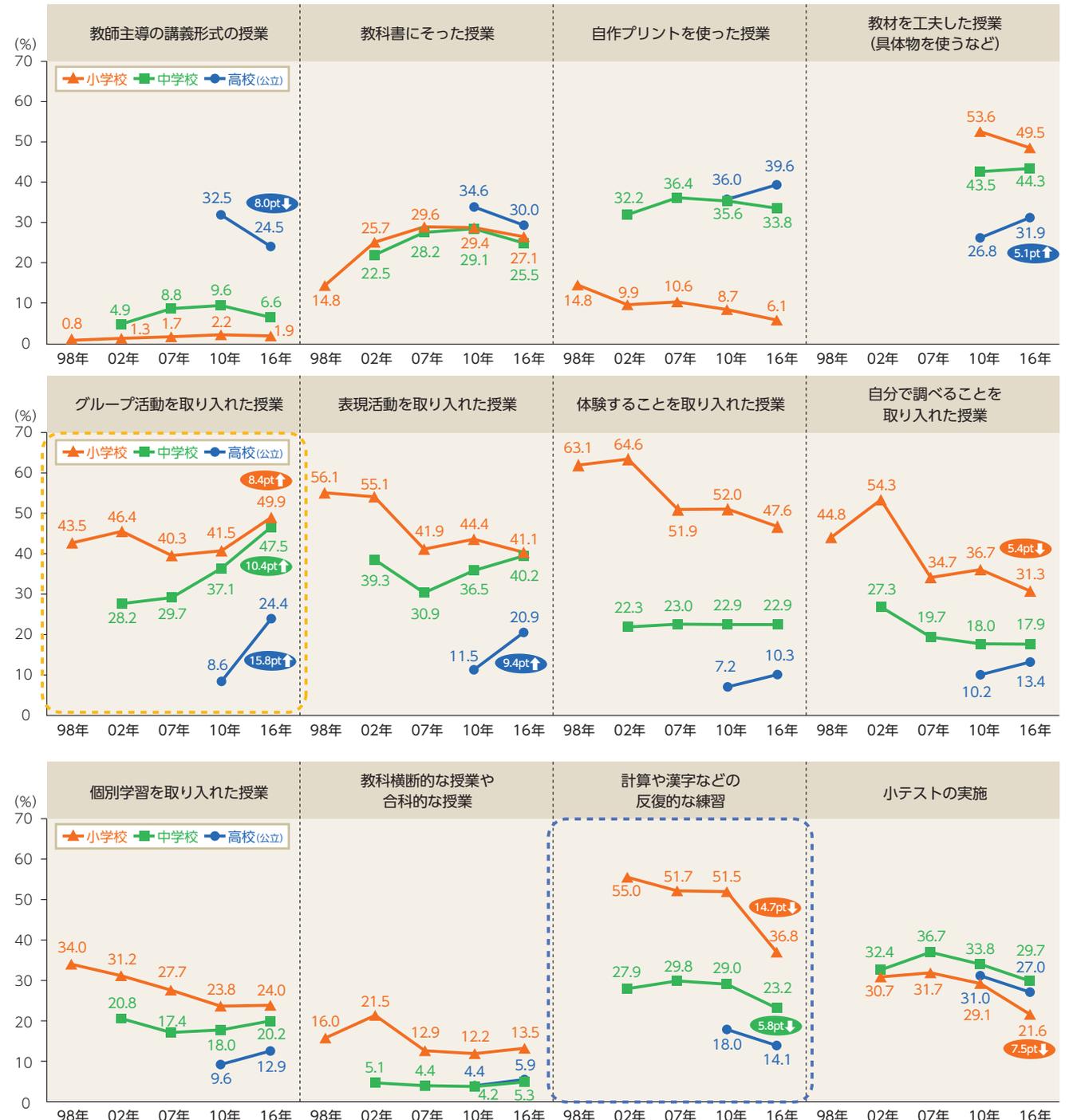
注1) 選択肢は「多くするように特に心がけている」「まあ心がけている」「あまり心がけていない」の3択。

注2) 学校段階別に上位3位までを①～③と表示している。

小・中・高校とも10年比で「グループ活動を取り入れた授業」を意識する教員が増加。特に高校の増加幅が大きい。

「多くするように特に心がけている」授業方法について、経年変化をみると、10年比で小・中・高校とも「グループ活動を取り入れた授業」が増加しており、高校は、小・中学校に比べて値は低いものの、15.8ポイント増ともっとも変化が大きい。一方、減少幅の大きいのは、「計算や漢字などの反復的な練習」で、小学校で14.7ポイント減、中学校で5.8ポイント減であった。高校では「教師主導の講義形式の授業」が8.0ポイント減っている。

図2-2 心がけている授業方法(経年比較) 小学校 中学校 高校 教員 [多くするように特に心がけている]の%

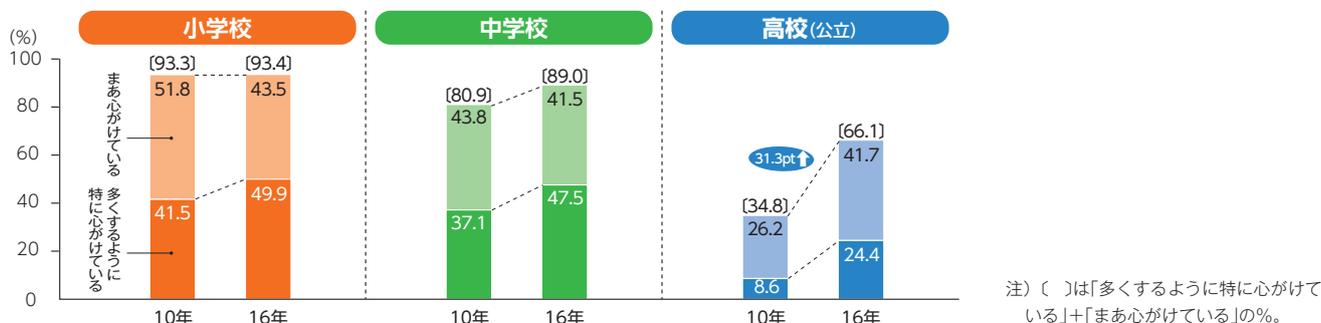


注1) 選択肢は「多くするように特に心がけている」「まあ心がけている」「あまり心がけていない」の3択。
 注2) 「児童・生徒どうし話し合いを取り入れた授業」は10年以前はたずねていないので、省略している。
 注3) 中学校の97年調査ではこれらの項目をたずねていない。 注4) 00.0pt↑ 00.0pt↓ は10年調査比で5ポイント以上の増減のあることを表す。

2-1 心がけている授業方法

高校は「グループ活動」を「特に+まあ心がけている」の合計値が31.3ポイント増加。中学校との意識の差が縮まる。

図2-3 「グループ活動を取り入れた授業」を心がけている割合(経年比較) 小学校 中学校 高校 教員



高校の教科別には、「国語」「外国語」「公民」で意識の変化が大きい。

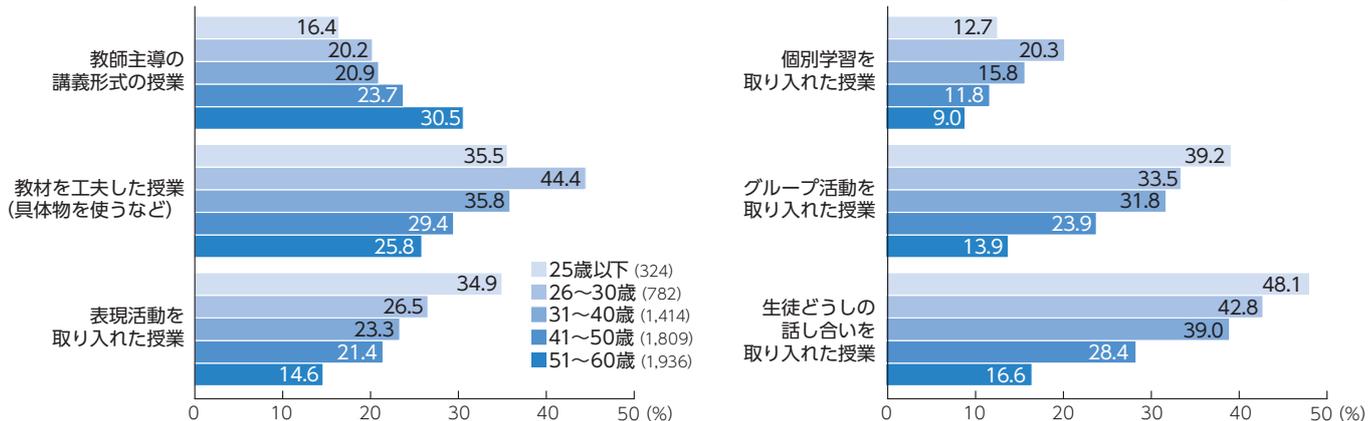
表2-1 心がけている授業方法(経年比較(担当教科別)・9項目[公立全体]) 高校 教員
「多くするように特に心がけている」の%

	国語			地理歴史			公民			数学			理科			外国語		
	10年 (569)	16年 (1,153)	差	10年 (470)	16年 (993)	差	10年 (178)	16年 (541)	差	10年 (663)	16年 (1,271)	差	10年 (499)	16年 (1,099)	差	10年 (618)	16年 (1,268)	差
教師主導の講義形式の授業	25.8	16.4	-9.4	56.4	39.9	-16.5	44.4	36.0	-8.4	30.9	24.1	-6.8	36.5	29.1	-7.4	16.2	10.9	-5.3
教科書にそった授業	35.3	26.5	-8.8	38.5	36.1	-2.4	30.9	33.6	2.7	36.2	30.1	-6.1	32.7	30.4	-2.3	32.7	26.6	-6.1
自作プリントを使った授業	30.4	30.0	-0.4	48.7	53.2	4.5	41.6	41.8	0.2	17.5	21.3	3.8	38.9	44.6	5.7	46.1	50.2	4.1
教材を工夫した授業(具体物を使うなど)	19.7	22.0	2.3	36.4	39.7	3.3	23.0	32.2	9.2	14.6	17.4	2.8	42.9	47.6	4.7	25.7	34.4	8.7
グループ活動を取り入れた授業	10.0	29.9	19.9	2.1	13.5	11.4	3.9	21.8	17.9	4.1	16.4	12.3	5.4	20.4	15.0	21.4	40.9	19.5
表現活動を取り入れた授業	20.7	30.4	9.7	4.0	11.6	7.6	9.6	17.6	8.0	4.8	9.4	4.6	3.2	12.3	9.1	23.0	40.4	17.4
体験することを取り入れた授業	4.4	6.9	2.5	1.9	5.3	3.4	1.7	7.2	5.5	2.9	4.7	1.8	21.8	22.3	0.5	6.3	13.3	7.0
自分で調べることを取り入れた授業	16.9	19.9	3.0	9.6	16.4	6.8	7.9	15.0	7.1	2.9	4.2	1.3	7.4	9.6	2.2	14.9	16.2	1.3
個別学習を取り入れた授業	13.0	17.3	4.3	3.6	7.8	4.2	1.7	7.9	6.2	10.3	14.4	4.1	6.0	8.5	2.5	15.5	17.5	2.0

注) 網かけは、10年調査と比較して、10ポイント以上の増加を■、減少を■、5ポイント以上10ポイント未満の増加を■、減少を■で示している。

年齢別には、ベテランほど「講義形式」を、若年層ほど「グループ活動」を意識する傾向。

図2-4 心がけている授業方法(教員年齢別[公立全体]) 高校 教員
「多くするように特に心がけている」の%



2-2 心がけている授業時間の使い方

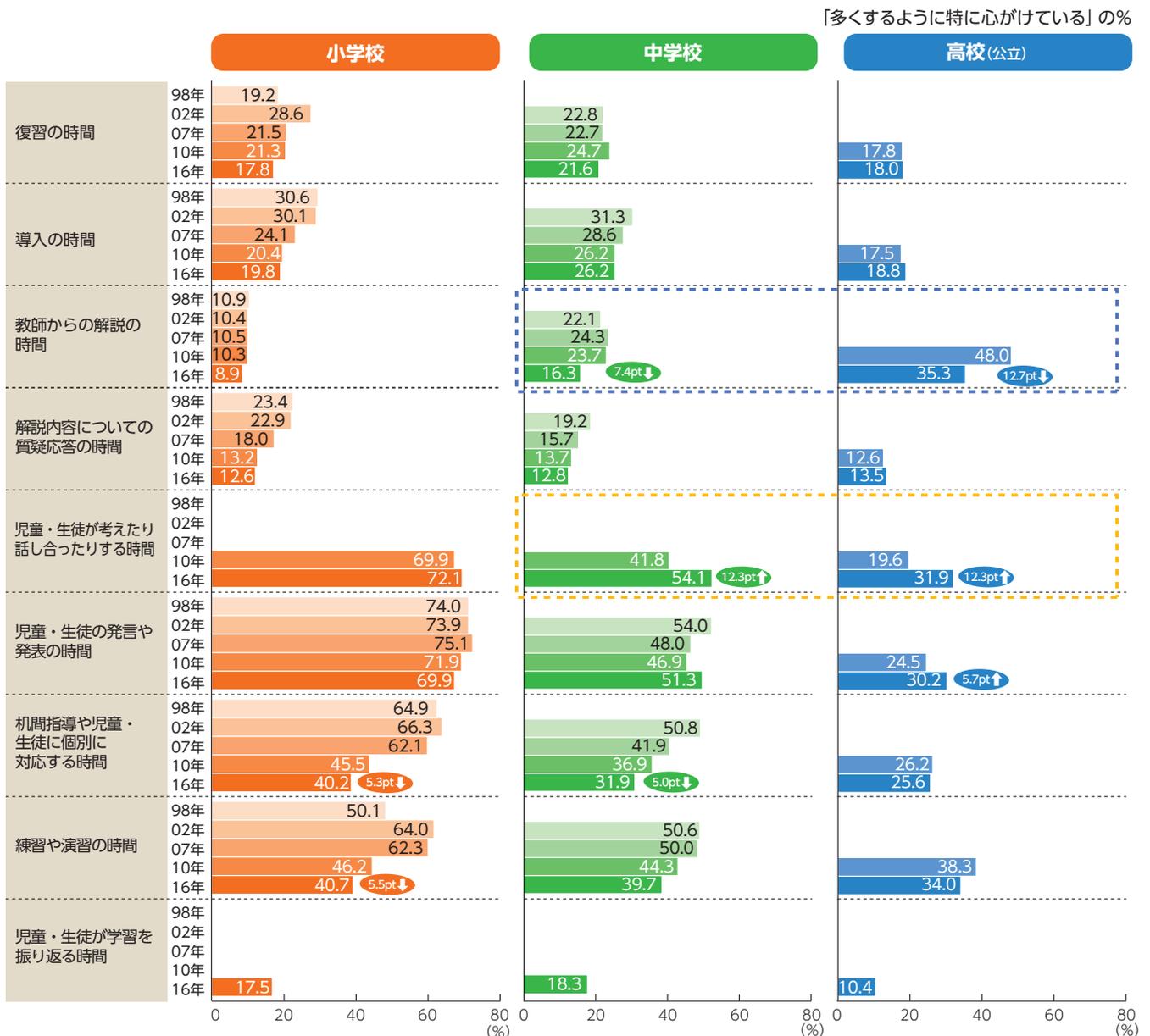
中・高校で、「生徒が考えたり話し合ったりする時間」を意識する教員が増え、「教師からの解説の時間」は減少。

小・中学校の教員が授業の中で「多くするように特に心がけている」時間として高いのは「児童・生徒が考えたり話し合ったりする時間」、高校では「教師からの解説の時間」である。反対に小・中・高校で共通してあまり意識されていない項目が「解説内容についての質疑応答の時間」「児童・生徒が学習を振り返る時間」で、いずれも1割台である。経年で変化が大きいのは、中・高校の「生徒が考えたり話し合ったりする時間」の12.3ポイント増(10年比、以下同)、「教師からの解説の時間」の中学校7.4ポイント減、高校12.7ポイント減であった。

Q

あなたは、教科の授業を進める際にどのような時間の使い方や進め方を心がけていますか。

図2-5 心がけている授業時間の使い方(経年比較) 小学校 中学校 高校 教員



注1) 選択肢は「多くするように特に心がけている」「まあ心がけている」「あまり心がけていない」の3択。

注2) 「児童・生徒が考えたり話し合ったりする時間」は07年以前はたずねていない。「児童・生徒が学習を振り返る時間」は16年のみ。

注3) 中学校の97年調査ではこれらの項目をたずねていない。

注4) 0.0pt↑ 0.0pt↓ は10年調査比で5ポイント以上の増減のあることを表す。

2-3 ICT機器を活用した授業

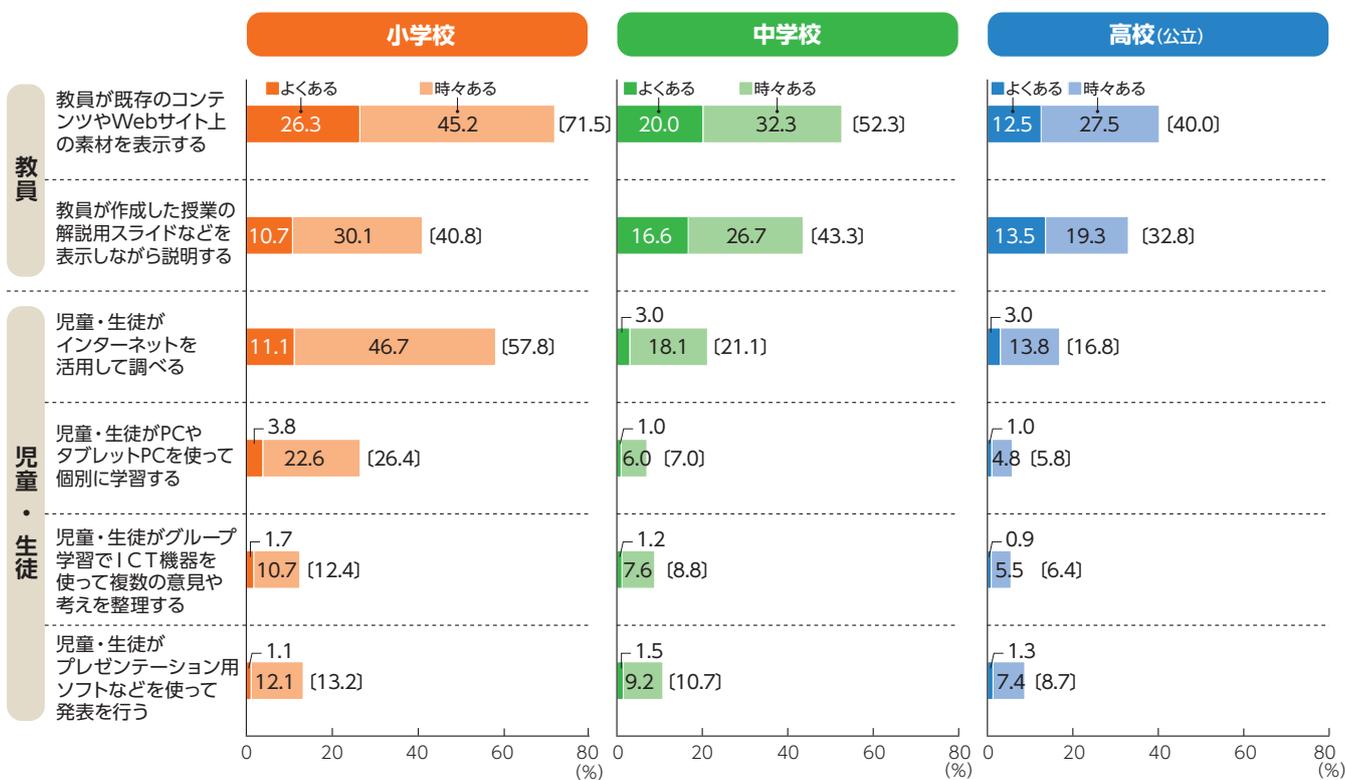
中・高校では教科の授業における生徒のPCやタブレットPCの使用率は低い。

授業でのICT機器の使用割合は、ほとんどの項目で小学校がもっとも高く、「教員が作成した授業の解説用スライドなどを表示しながら説明する」のみ中学校が高い。小学校について担任をしている学年別にみると、どの項目も学年が上がるにつれ使用率は上がり、特に「児童がインターネットを活用して調べる」割合は学年差が大きく、高学年では8割以上が使用している。中・高校の担当教科別にみると、教員が学習素材の提示を行っている割合は理科が高い。生徒の利用については「インターネットを活用して調べる」で教科別に活用状況の違いがみられるものの、その他の項目はどの教科も共通して低くなっている。

Q

あなたは、教科の授業において、次のような目的でICT機器を使うことがどれくらいありますか。

図2-6 ICT機器の活用状況 **小学校** **中学校** **高校** **教員**

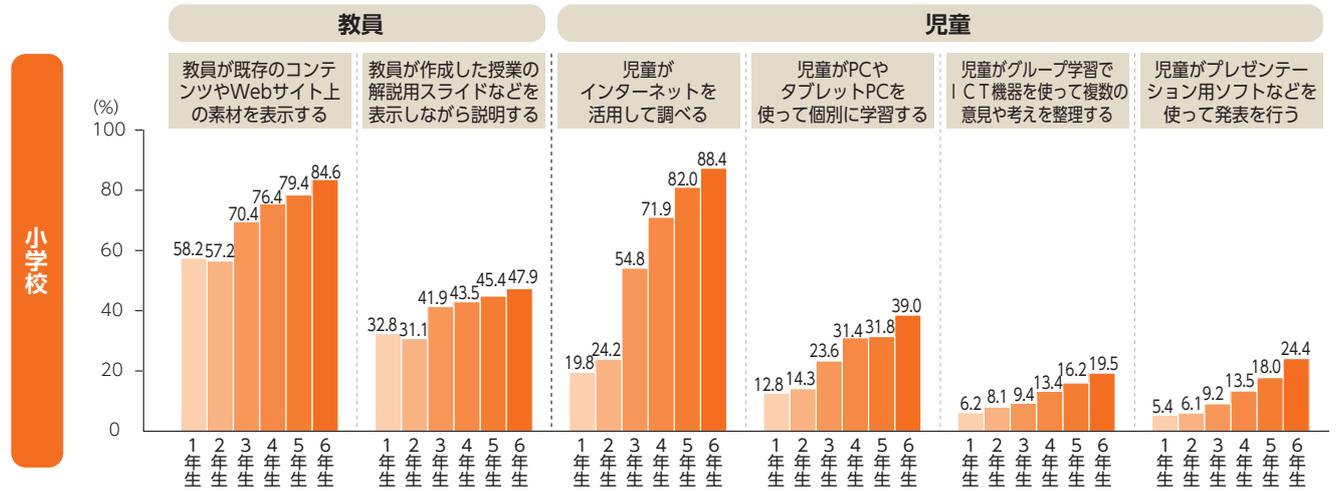


注1)〔 〕内は「よくある」+「時々ある」の%。

注2)小学校は「授業において」、中・高校は「教科の授業において」としてたずねている。

小学校高学年の8割以上が「インターネットを活用して調べる」活動を行っている。

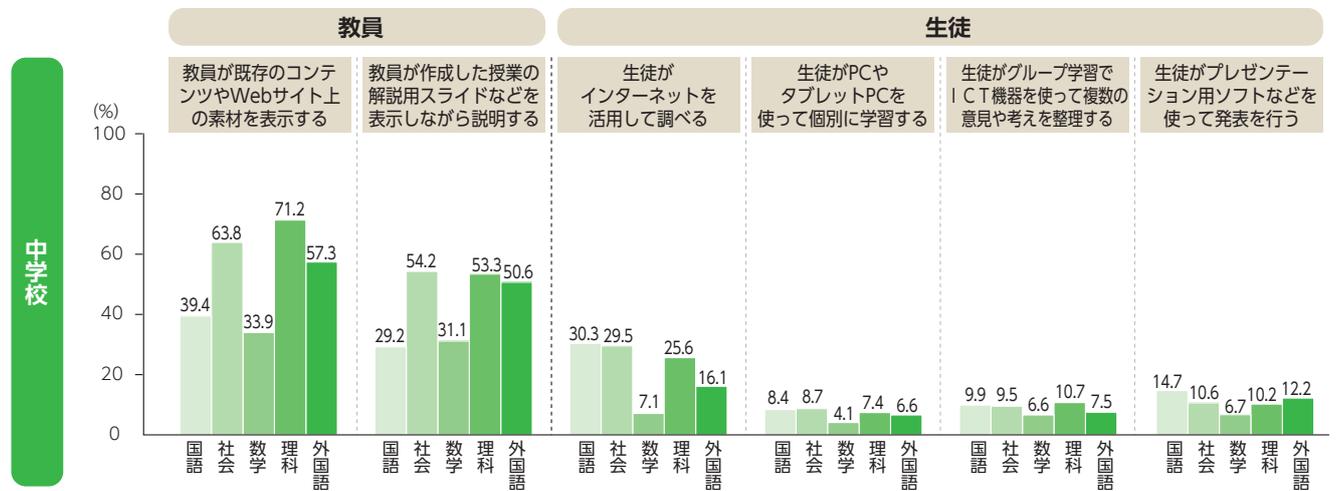
図2-7 ICT機器の活用状況(担任学年別) **小学校** **教員** [よくある]+[時々ある]の%



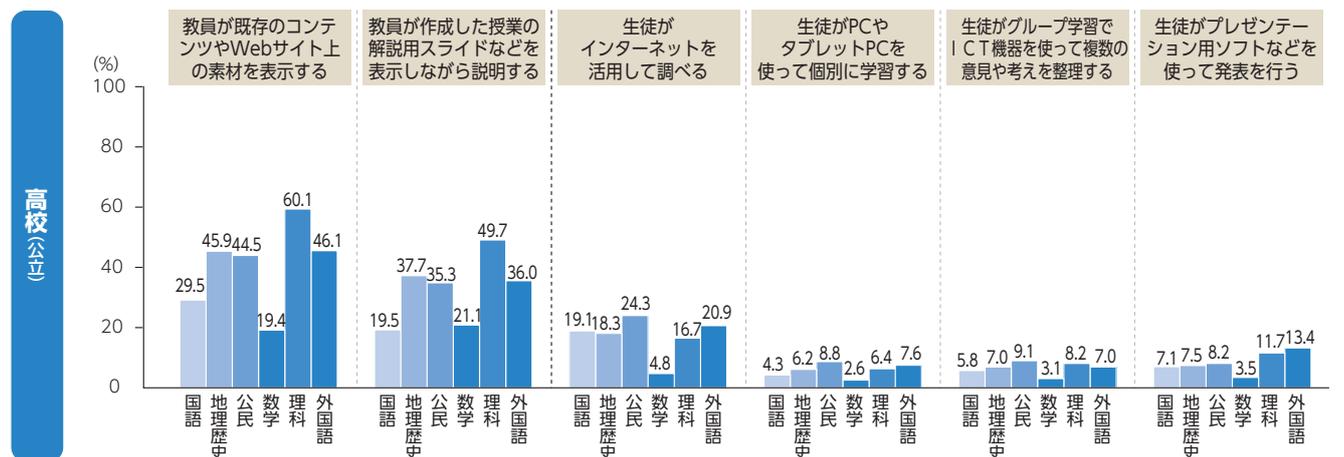
注) サンプル数は、1年生500名、2年生489名、3年生487名、4年生487名、5年生494名、6年生520名。

中・高校の担当教科別では、理科で学習素材の提示のための使用率が高い。

図2-8 ICT機器の活用状況(担当教科別) **中学校** **高校** **教員** [よくある]+[時々ある]の%



注) サンプル数は、国語698名、社会644名、数学841名、理科694名、外国語755名。



注) サンプル数は、国語1,153名、地理歴史993名、公民541名、数学1,271名、理科1,099名、外国語1,268名。

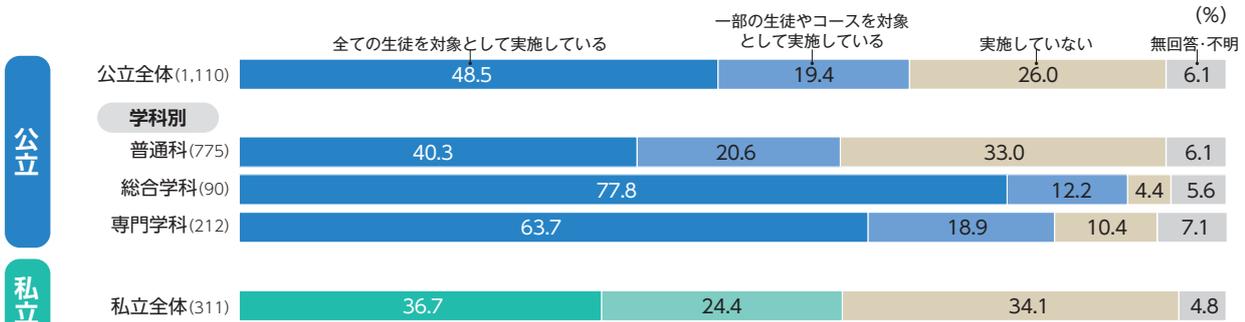
2-4 探究学習

探究学習・課題解決型学習の実施率は、普通科6割、総合学科9割、専門学科8割。

探究学習・課題解決型学習の実施率(「全ての生徒を対象」+「一部の生徒やコースを対象」)は公立の普通科で6割、総合学科9割、専門学科8割と学科による違いがみられる。学年別の時間数をみると、公立普通科では2年生がもっとも多いが、総合学科・専門学科では、3年生である。私立は1年生が多く、学年があがるにつれて減っていく。

Q 貴校では、探究学習・課題解決型学習(主体的・協働的に課題の設定からまとめ・表現や解決までを行う学習)を行っていますか。

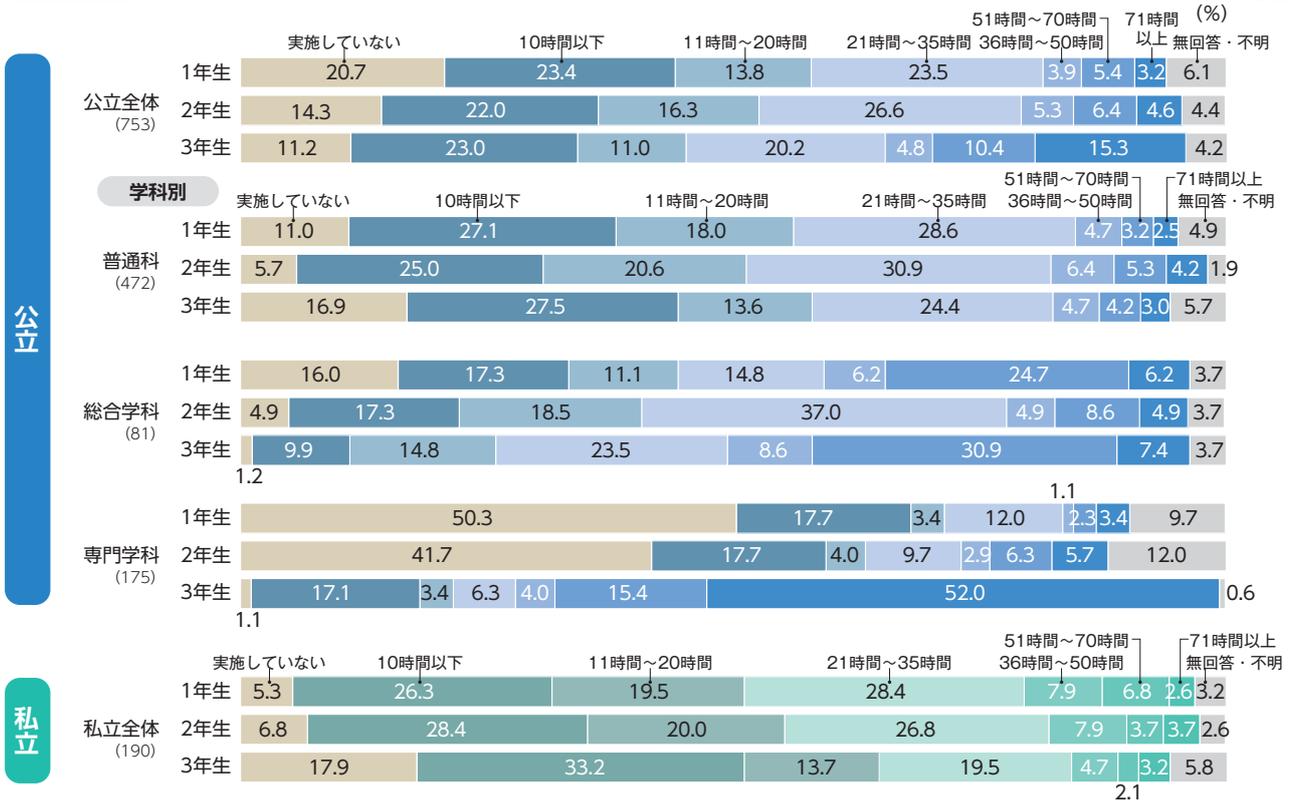
図2-9 探究学習・課題解決型学習の実施率(公立全体、学科別〔公立〕、私立全体) **高校** **校長**



注)本調査における探究学習・課題解決型学習とは、「総合的な学習の時間や学校設定教科を用いて、一定の期間をもって取り組む形式の学習活動」としてたずねている。

Q (実施校のみ対象) 貴校では、探究学習・課題解決型学習をどれくらい実施していますか。

図2-10 探究学習・課題解決型学習の実施時間(公立全体、学科別〔公立〕、私立全体) **高校** **校長**

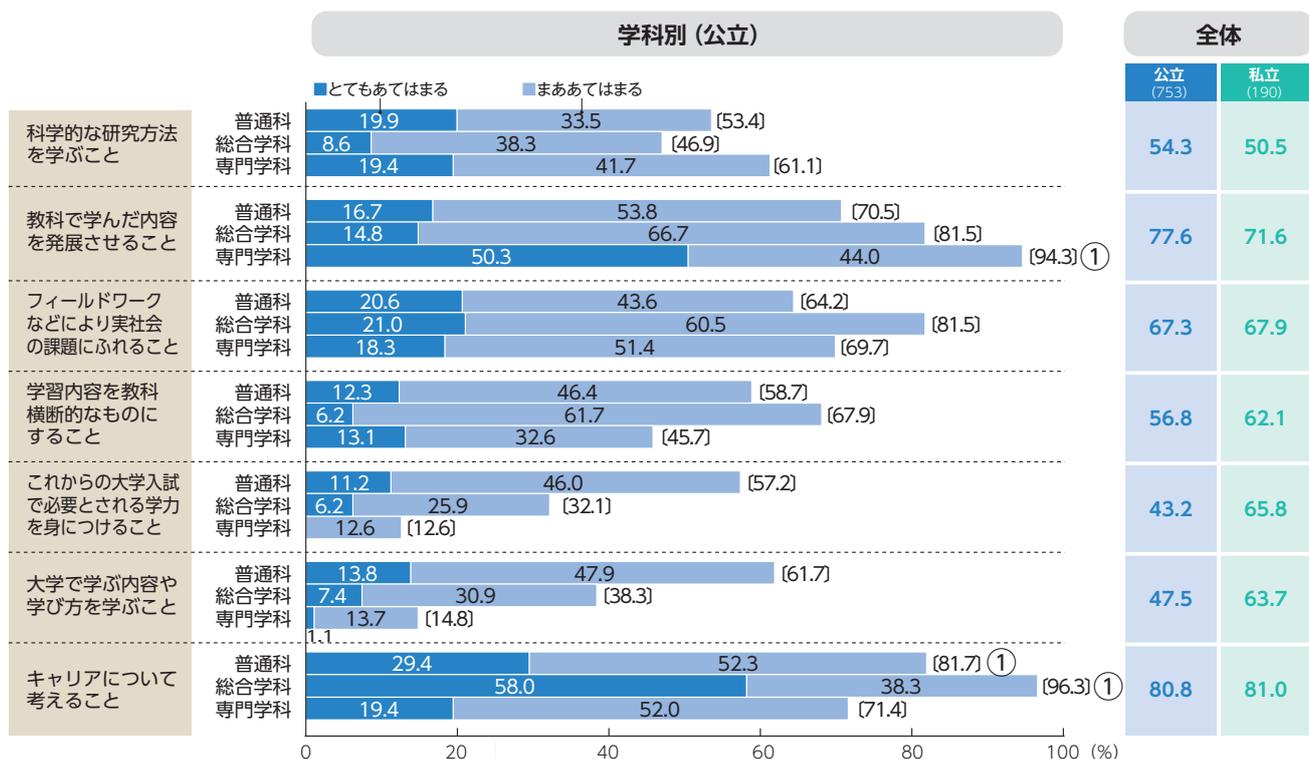


注)対象は、図2-9で「全ての生徒を対象として実施している」または「一部の生徒やコースを対象として実施している」と回答した人。

ねらいとして多いのは普通科・総合学科では「キャリアについて考えること」、
専門学科では「教科で学んだ内容を発展させること」。

Q (実施校のみ対象)
貴校の探究学習・課題解決型学習ではどのようなことをねらいとしていますか。

図2-11 探究学習・課題解決型学習のねらい(学科別〔公立〕、公立・私立全体) 高校 校長



注1)対象は、図2-9で「全ての生徒を対象として実施している」または「一部の生徒やコースを対象として実施している」と回答した人。
注2) ()内は「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。
注3)学科別にもっとも高いものに①を表示している。
注4)対象は、普通科472名、総合学科81名、専門学科175名。

連携先は、普通科で「大学や研究機関」、総合学科では「自治体や社会施設」、専門学科では「民間企業」が多い。

Q (実施校のみ対象)
貴校では、探究学習・課題解決型学習の指導にあたって次のような機関と連携をしていますか。

表2-2 探究学習・課題解決型学習の連携先(公立全体、学科別〔公立〕、私立全体) 高校 校長

(%) ※複数回答

	公立				私立
	全体 (753)	普通科 (472)	総合学科 (81)	専門学科 (175)	全体 (190)
大学や研究機関	56.2	60.4	53.1	44.0	53.2
民間企業	42.9	36.0	46.9	60.6	34.2
NPO・NGO	17.3	16.9	32.1	9.7	20.0
自治体や社会施設	44.9	40.9	64.2	46.3	22.1
その他	3.7	3.6	3.7	4.0	3.7
連携していない	17.7	20.3	11.1	15.4	26.8

注1)対象は、図2-9で「全ての生徒を対象として実施している」または「一部の生徒やコースを対象として実施している」と回答した人。
注2) ■は各属性性別にもっとも高いものを表す。

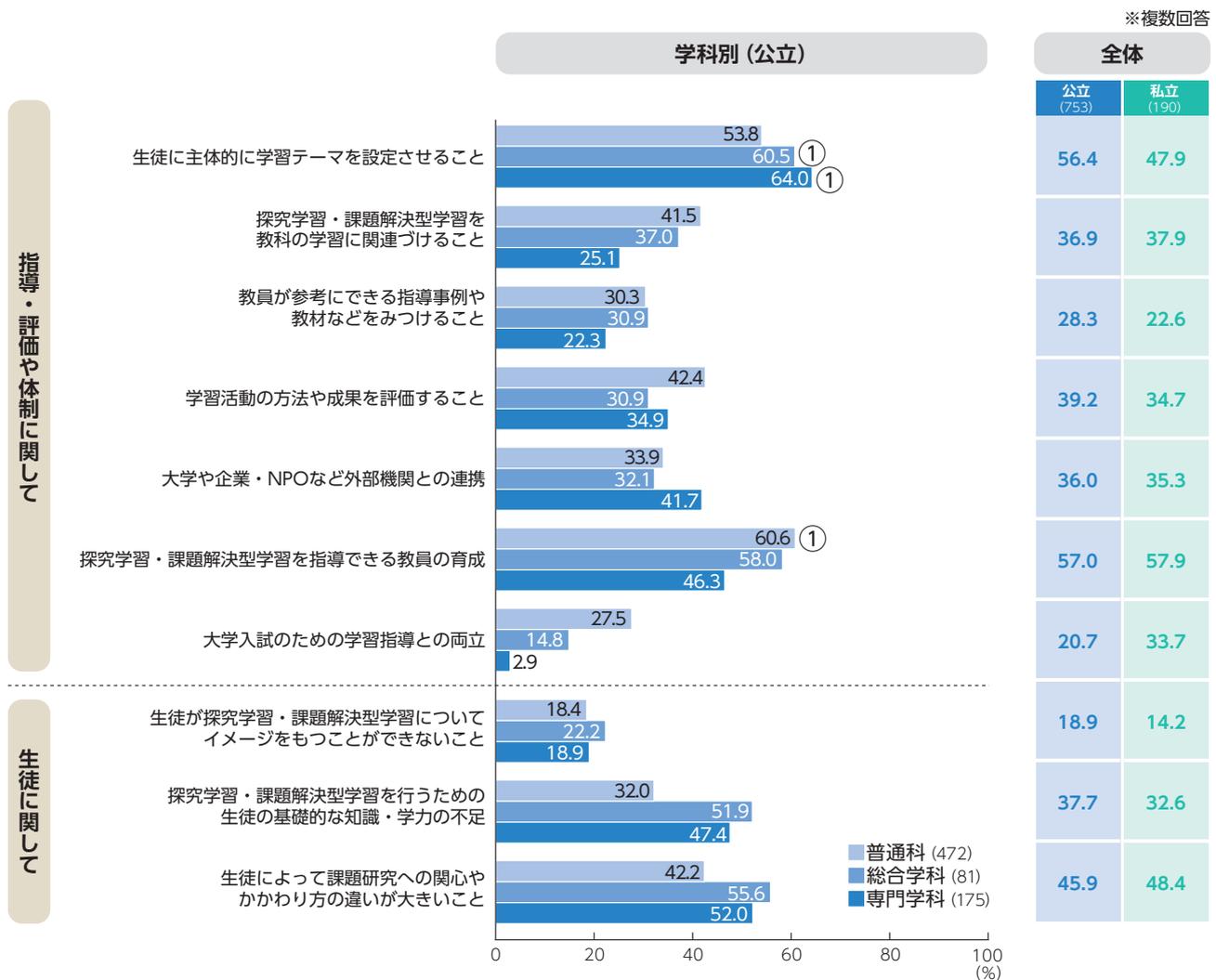
2-4 探究学習

課題として多いのは、普通科では「探究学習・課題解決型学習を指導できる教員の育成」、総合学科・専門学科では「生徒に主体的に学習テーマを設定させること」

探究学習・課題解決型学習の課題についてたずねたところ、普通科では「探究学習・課題解決型学習を指導できる教員の育成」(60.6%)、総合学科・専門学科では「生徒に主体的に学習テーマを設定させること」(60.5%、64.0%)である。総合学科・専門学科については「生徒によって課題研究への関心やかかわり方の違いが大きいこと」も半数を超えている(55.6%、52.0%)。学科別に違いがみられるのは「大学入試のための学習指導との両立」で、普通科で相対的に高くなっている。

Q (実施校のみ対象)
貴校で探究学習・課題解決型学習を行うにあたって課題に感じていることは何ですか。

図2-12 探究学習・課題解決型学習の課題(学科別〔公立〕、公立・私立全体〔全学科〕) **高校** **校長**



注1)対象は、図2-9で「全ての生徒を対象として実施している」または「一部の生徒やコースを対象として実施している」と回答した人。
注2)学科別にもっとも高いものに①を表示している。